

令和２年度 愛寿苑ショートステイ 事業計画

【事業目的】

介護保険法の理念に基づくと共に、高齢者が自立した生活を送れるよう、老化に伴い介護を必要とする者に対し、適切な介護老人福祉施設サービスを提供する。

【事業目標／方針】

事業目標	
◎専門性、チームワークの向上に努めます。	◎職員の質の向上の促進 ・ 職員の育成を「ベテラン育成」「中堅者育成」「新人育成」の混合の縦割りに班分けし、施設内勉強会や外部研修、委員会活動やOJTなどを育成ツールとして活用する。 ◎専門性の育成に向けた資格取得の推進 ・ 介護職員の資質向上のため、介護福祉士、介護支援専門員、喀痰吸引研修等の資格取得に向けた研修への受講の支援を行う。(※喀痰吸引研修、認知症実践者研修、初任者研修、実務者研修、介護支援専門員実務者研修等)

事業目標	
◎認知症対応、看取りケア、自立支援など重度化への対応ができよう努めます。	◎認知症の人の言動を多様な視点で捉え考えることができるよう理解を深める。 ・ 認知症の理解を深めるため、勉強会・研修を実施する。 ◎統一したケアを継続し、利用者のQOLの向上と職員の資質向上を図る ・ 全職員が担当利用者の状態(認知症・ADL等)の状態を把握し、その利用者の個別ケアの推進を行う。委員はその進捗状況の管理を行う。 ◎痰の吸引に関わる安全確保と体制整備の確保、維持に努める。 ・ 定期的に安全に吸痰手順が行なえているかを確認し、計画的に職員個別の指導を実施する。 ・ 医師、看護師指示のもとで安全に痰の吸引が実施できるよう、関係各職種及び他の医療機関、地域他機関と連携し、安全確保のための体制整備等の協議を行う(安全、ヒヤリハット)。 ◎利用者・家族にとってよい最期を迎えられるよう支援する。 ・ 看取り介護に関する研修を実施し、利用者本人だけでなく関わる人の不安の軽減に繋げる。 ・ 日々の関わりの中で、本人・家族とのコミュニケーションを大

	切にするよう働きかけ、できる限り要望を取り入れたケアを実践する。 ・各職種が情報共有・連携してケアの内容が適切かを考え、必要時は適宜変更する。 ・職員が振り返って考える機会を持ち、今後の支援に生かす。
--	--

事業目標	
◎利用者の安全と健康維持に努めます。	◎ヒヤリをたくさん見つけ職員に周知し、事故を限りなくゼロに近づける。 ・安全のための研修を実施し意識向上を図る。 ・介護事故やヒヤリハット報告を集約・分析し、対策の検討と周知、効果の検証を行う。 ・利用者生活の質向上のため、環境・適切な福祉用具の使用・点検・介護の質・チームの質等をフロア職員で振り返る働きかけを行う。 ・リスク6か条を定期的に、環境美化委員と共に周知を行う。 ◎感染症の発症・蔓延防止し、利用者の健康維持に努める。 ・定期的に感染症予防に関する研修を行い、職員の感染症についての理解を深め、臨機応変に対応することができるよう、周知・実践する。 ・感染症マニュアルに沿った対応が適切にできるよう、必要物品の管理を行う。 ・感染症の発生状況に応じたマニュアルの見直しを行い、作成する。 ・感染症の発症・蔓延防止に向けた働きかけを行い、適切に実施されているかの確認を行う。 ・感染症予防強化月間を定め、感染症蔓延防止に努める。 (11～3月頃) ◎褥創予防に関する理解を深め、褥創ゼロを目指す。 ・褥創予防に関する研修を実施し、褥創予防の理解を深める。 ・利用者の褥創発生リスクを把握し、利用者に適した介護方法や福祉用具の使用等(管理)を専門職・推進委員・フロア職員で検討し実践する。また適切に実施できるよう確認・働きかけを行う。 ◎利用者・家族が快適に過ごせるよう環境(住環境、接遇)を整える。 ・年間計画に基づいて、環境整備する箇所を定め、各職員で実施するよう働きかけと確認を行う。

	・日々の環境整備の実施を働きかけ確認を行う。 ・利用者・家族が安心して過ごせるような環境作り(居室だけでなく、フロア内)を、利用者・家族・職員で協力して行う。 ・元気よい挨拶、適切な言葉遣い・身だしなみを各職員が実践できるようにリスクマネジメント委員会と共に、働きかけと確認を行う。
--	---

事業目標	
◎地域と共に安心ある暮らし・施設創りに努めます。	◎コミュニケーションを大切にした馴染みの関係創り。 ・地域の方々が気軽に来苑してもらえるような活動の検討・実施を行う。 ・地域のイベント開催時には、場所の提供や職員参加を積極的に行い交流を深める。(利用者との参加を検討しながら行う) ・行事企画は、地域との交流等を踏まえて企画・運営をする。 ・推進委員主体で防災訓練を実施する。地域と連携した防災活動を視野に検討する。 ◎利用者・家族・地域に向けて、愛寿苑の活動を情報発信する。 ・かがやき(広報誌)、ホームページの作成。 ・施設の取組み等をわかりやすく情報発信する。繋がり強化や人材確保に繋がるよう内容を掲載し、地域での設置場所の検討を行い情報発信する。 ◎災害時の迅速な対応ができるよう努める。 ・災害時の迅速な対応ができるよう避難訓練を行う。 ・福祉避難所として受け入れ対応ができるよう訓練を行う。 ・災害時に必要な備蓄品の管理を行う。

【年間行事】【業務内容】【会議・委員会】【職員研修】【職種別業務内容・作成記録】に関しては、特別養護老人ホーム愛寿苑の事業計画に準ずる。